

発行所  
 東京都江東区  
 越中島3-3-1  
 東京都立第三商業  
 高等学校同窓会  
 編集 同窓会事務局  
 東京都足立区  
 西新井栄町1-19-39-1005  
 電話03(5681)1398  
 (柴崎)

# 三商同窓会報



No.46



ごあいさし

三商同窓会  
 会長 木戸 隆吉

平成十九年五月場所で、全勝優勝した「白鵬」が、第六十九代横綱に推挙されました。

その国技館通り、J.R両国駅から徒歩二分のところに、三商十九期卒大関守君の経営するそば処「大関庵」がある。そこで毎月十九日に同期一九会があり、同窓会事務局の打ち合せ会、二十五期会の幹事会や、一次会、今年六月十八日には、会計人会の総会まで開催されました。ご来賓として出席された公認会計士の東渡時雄先生から、教え子の二十九期卒、亀田光昭君が此の度村田簿記学校の、理事長になったことを話してくれました。大変名誉ある出来事で、先生も大変喜んでおられました。

このように「大関庵」の利用度が多いのは、ご主人の人柄。三商精神が配慮されているとしか考えられない、どこかいいところがあるように思われます。

さて、一期から七十四期の卒業生の皆様、お元気ですか、お伺い申し上げます。顧みれば、平成十五年四月から、学校側より同窓会が離れ、本来の姿に戻り「同窓会」の、同窓会による、同窓会のための「同窓会」になり、独自運営で理事、評議員が一体となって、頑張っているところで、来年一月三十一日は、創立八十年を迎えます。その式典、祝賀会を平成二十年一月十二日(土)に、

江東区住吉にある、「ティアアラ江東」の一階大ホールで、午前中正式典、午後一時より地下一階にある、大会議室、中会議室を使用して祝賀会を催すことに決定しておりますので、只今学校、同窓会、PTAの方々、式典、総務、祝賀会、記念誌、会計の部門に分かれ検討しているところです。就きましては、これに伴う拠出金を同窓会として、金二百万円を出費いたしますので、同窓会の皆様には、何卒ご理解、ご協力の程お願い申し上げます。目標としては、各期割当金十万円、同期会の行われていない期の方々には、一口金二千円から呼びかけ、OB団体グループ会の皆様には、一団体五万円を、この六月より受け付けておりますので、奮ってご寄進の程お願い申し上げます。詳細は五ページに掲載してありますからご覧下さい。本来ならば、三商校舎で挙行されるのがベストなのですが、都からの通達で、禁煙、禁酒となっておりますので、他の施設を余儀なくされました。

又学校へは、同窓会より就職活動費、各クラブ活動助成費、卒業生に贈る記念品等に出費しており、収入の方は、新卒業生による永久会費一人金七千円でしたが、平成二十一年卒業生から、金壹万円に引き上げさせていただくよう、総会にあたる理事、評議員会で承認されましたので、

ご協力頂くことになりました。「協賛金」と併せて、借方、収入として記入させていただきます。これによって、今年度より、周年行事に備え、周年行事基金として、毎年二十万円を積立てゆく所存です。

次に事業報告としては、七月、同窓会報発行、十月六日(土) 日比谷公会堂に於ける「校歌祭」に参加。校歌、応援歌を百人ステージで歌い上げ、三商健児ここに在りの印象を強くアピールし、終了後「反省慰勞会」を近くのビル地下一階で、会費四千元にて行います。

十月二十日(土) 午後五時三十分より、バレーボールで日本の代表選手として活躍された、三商二十期卒の出町豊様に三十分講演を頂き、OB団体グループ交流会と銘打って、三水会、木樨会、会計人会、三珠会、放送部会、三文会、剣道部会、バレーボール会、卓球部会、史学部会、音楽部会、書道部会等に声をかけて、二年に一回催されるこの会を、盛り上げて有意義な会にしたいと思っております。又今でも二人以上で集まっている方々があれば、同窓会事務局にお申し込み下さい。

次に、前回の会報で、二十二期卒の弁護士氏の氏名が判明しましたので、ご紹介いたします。越路正巳様で、住所は「小平市学園東町五三八の四十一」です。電話、ファックスは〇四二一三四二一、二六六四です。前回紹介した奥山剛様、電話〇三三三八四七、一六三六九、同様に活用下さい。

OB団体グループ交流にもご出席いただければ、幸いです。場所は、両国第一ホテル二階にある「東天紅」に於いて催します各団体の皆様には奮ってご参加下さい。

三商祭が十月六日、七日に行われますので、学校の方へも足を運んで下さい。この春の卒業生は、百七十八名となり、輩出した同窓生は総数二万四千六百三十名と、益々偉大な学校になってきております。年末は、忘年会、明けて年初は、創立八十年記念事業、そして年度末の理事会で、本年度は終了致します。

尚今年三月に予定しておりました「日帰りバス旅行」は、当日がお客様と重なったため、参加者が少なく、中止にさせていただきました。一方東京三商会の財源も減少の一途をたどって、維持継続に苦慮し、同

## 校歌祭

日時：平成19年10月6日(土)  
 時間：午後3時30分集合  
 場所：日比谷公会堂

詳細は P.7 参照

## OB団体交流会

日時：平成19年10月20日(土)  
 場所：「東天紅」(第一ホテル両国)  
 会費：6,000円

詳細は P.7 参照



窓会役員十一名が名を連ねて、好転するよう努力しております。

同窓会は来年特別同窓会報を発行すべく計画しており、八十周年に因んだ記事を掲載し、特にご寄付下さった方々のご芳名、団体、各期の協力状況を、克明に銘記し、未来永劫記録に残るように編集致します。名簿の作成につきましては、八十年を記念して、出版するか、否かは、目下検討中ですので、理事、評議員にお任せ下さい。

おわりに、特別記念誌(特別同窓会報)には、三商十期卒、昭和二十二年三商の教諭になられた「竹田一

# ごあいさつ

校長 柴田 哲



さわやかな季節となりました。卒業生の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より母校の教育活動にご理解、ご支援をいただきまして、ここより厚く御礼申し上げます。また、早いもので、三商に着任して三年目を迎えることになりました。これも卒業生の皆様のご協力とご支援によるものと感謝申し上げます。

さて、今年の三月の本校卒業生は、進路実績において大変素晴らしい成

郎先生」の第四十二号同窓会報に載った「隅田川、晴海運河の流れ、豊に」の寄稿第四十二号の掲載に、校正をしないまま、記事にしたため、先生より当時の事務局に抗議の電話、郵便物を送付され、恐縮し、大変ご迷惑をおかけしたことを、紙上をお借りして、改めてお詫び申し上げます、今後なんらかの出版時に、校正された文章で掲載することを約し、お許しを得て、今日に至った訳で、特別同窓会報に、個人的要素のある文章を割愛させて頂き、出版されるのでご了承下さい。先生の文章は、すばらしい流れで、内容的には三商

果を上げ、百七十八名が同窓会に入会いたしました。その後、引き続き在校生への大きな励みともなりました。

その卒業生の進路先は、四年生大に三十二名、短期大学に九名、専門学校に三十八名、就職八十八名です。進路未決定者は十一名です。その十一名の中には、来春の四年制大学入学を目指している者が六名おります。

三月の卒業証書授与式の式辞でも述べました「未決定者五%以内という数値目標としては達成できていませんが、私はそれ以上の成果があったと思います。それは、高い志を持ち、一度や二度の失敗であきらめず、辛抱強く努力を継続し、再挑戦するという道を選択した卒業生がいるからです。在校生諸君も卒業生を見習って、一度や二度の失敗にめげず、安易に妥協せず高い志を持ち、辛抱強く努力を継続してください。」が、私は高校期において最も重要と考えております。実業界で活躍の先輩諸氏に一歩でも近づける卒業生を輩

の歴史に準ずる貴重なものがあります。是非ご一読下さい。今は亡き竹田先生の面影を偲びつつ、墓前に報告し、ご冥福をお祈り申し上げる所存で一杯です。

大変長くしたためましたが五年間に亘る同窓生の暖かいお力添えに、感謝申し上げます、同窓会の十九期以降の役員さんも皆素晴らしい方々が揃っておりますので、安心して、パトナッチが出来ます。二代会長、都築健一様、四代会長大嶽清様もご健在でご指導頂き、同期生の方々にも、ご支援をいただいた事大変有難く、「温故知新」をモットーに責務を全

出できるよう、三商の教育活動のよりいっそうの充実を図ってまいります。

また、今年度は三商創立八十周年の記念すべき年です。この節目の年にあたり、平成二十年一月十二日(土)に創立八十周年式典及び祝賀会を江東区の「ティアラ江東」で行うために周年行事実行委員会を立ち上げました。

委員長に同窓会会長の木戸隆吉氏にお願いいたし、同窓会役員の方々にも様々な委員や係りをお願いしております。また、同窓会の方からは周年行事に向けてのご寄付やお声がけをいただいております。ありがとうございます。ご協力をお願いします。

先ず、同窓会員の皆様には、周年行事の準備・実施等において、何かと手助けをお願いすることがあるかと思っております。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

先ず、同窓会員の皆様には、周年行事の準備・実施等において、何かと手助けをお願いすることがあるかと思っております。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

うしてきました。今年も早や七十四才限界です。三商の発展と同窓会のご活躍ご健勝を祈念してごあいさつとします。

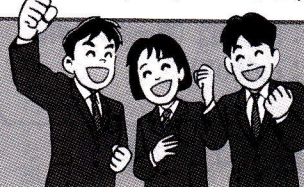
## 三商の現況が判ります。

ホームページアドレス

www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/

## 三商祭のお知らせ

10月5(金)・6日(土)



前九時三十分からの儀式的な部門と、十時二十分からの本校生徒の発表という二部形式の記念式典を計画しております。

先輩諸氏からは様々なすばらしい卒業生方をご紹介いただき、講演会等のご助言をいただきましたが、参加される方々の共通の話題となることを優先いたしまして、現在の本校生徒の様々な発表という企画をいたしました。

二部における生徒の発表では、本校の吹奏楽部・箏曲部・バントワリング部・ダンス部の発表を計画しています。そして、記念式典の最後には、本校応援歌の斉唱があります。時代は違ってもかもしれませんが、現役生徒とともに大きな声で応援歌を斉唱していただき、当時の三商を回顧していただければと思います。

さらに、午後一時より祝賀会を会費制にて実施することを計画しております。多くの同窓会員の皆様の参加をお待ちしております。

本来ならば、記念式典・祝賀会のご案内は、同窓会員の全員にお出しするものと考えますが、同窓会全員の住所を正確に把握できていないことと予算の面から役員・評議員の方々にお出ししたことが決まりました。本校ホームページにも詳細を掲載することを計画しておりますので、記念式典・祝賀会に関するお問い合わせは、誠に申し訳ありませんが、本校がご案内をお出しした各期の評議員の方々にお聞き願いたいと思っております。

また、周年行事実施に先立ちまして、十月五日(金)六日(土)には、三商祭(文化祭)を企画しております。地域の方々や中学校から「三商は良くなった。変わった」と言われている生徒たちを是非ともごらんになっていただければと思います。

最後になりましたが、同窓会員の皆様のご活躍とご健勝、並びに平成二十年一月十二日にお会いできることをご祈念申し上げます。校長からの挨拶とさせていただきます。



# 平成十九年度 定例評議員会報告

五月十二日(土曜日) 亀戸文化センターにおいて、本年度の定例評議員会が開催され、平成二十二年以降の議事の進行方法に従って、議案の審議と、活発な討議が行われました。付議議案は六議案で、いずれも承認可決されました。

重要議案は「同窓会会則一部改定の件」で、主な決議事項は左の通りでありました。  
会則一部改定の趣旨 他校の事例に倣い増額、及び同窓会の余資留保を図るため等、左の条項につき語句の整理を含め改定しました。

一、第五条関係 会員資格の一部を削除した。(削除対象中途退学者)  
二、第七条関係 ① 現行では「正会員の終身会費を細則で定める」とあるのを、細則に定めなきため、会則改定し、「二万円」と改定し明定した。

② 現行では同窓会入会同意書の提出時期の定めがなく、卒業時を慣習としていたが、「入学時に提出する。」ことと新設規定した。

・報告事項 十八年度事業報告及び同会計報告の承認の件―承認可決された。  
・承認事項 十九年度事業計画及び同会計予算の承認の件―承認可決された。

・母校創立八十年記念事業に対し、一部支援の件  
右の会計予算の承認により、別掲趣旨の通り支援活動を行うことに決議されました。

## 昨年度の主要な活動について

十八年二月 四日 八十年周年記念式典実行委員会立上げ(日程会場選定・記念誌発行審議)

四月二十九日 定例評議員会開催 四月九日入学式(二〇一名)

七月 一日 第四五号同窓会報発行 九月一六日就職試験開始

十月 七日 第十四回校歌祭参加 十月七、八日母校「三商祭」(文化祭)

十月二二日 同窓会総会開催(於：ティアアラ江東) 十月三十日体験入学

十九年二月 十日 新年懇親会

三月 十日 PTAとの協賛による卒業を語る会への支援参加

この間、通期理事会開催数は、全八回開催致しました。

## 今年度の事業計画について

十九年五月 五日 八十年周年記念行事実行委員会(臨時)の役割分担確認打合せ

五月十二日 定例評議員会開催

六月十四日 今年度第一回の「創立八十年周年記念式典」の周年行事実行委員会を開催し、記念式典次第及び進行方法につき骨子を決定。

七月 一日 第四六号同窓会報発行、加えて次期号(第四七号)を特別記念号として発刊する企画の立案

十月 六日 第十五回校歌祭参加(別掲) 十月五、六日母校「三商祭」

十月二十日 OB団体交流会開催(於：第一ホテル両国三階「東天紅」)

二十年一月十二日 創立八十年周年記念式典及び祝賀会(別掲)

## 都立第三商業高校創立八十年周年記念行事について(当日の日程について)

一、日 程 平成二十年一月十二日(土曜日)  
二、時 程 記念式典(第一部) 九時三〇分 開式 (約三〇分)  
祝賀会 (第二部) 十時二〇分 開式 (約九〇分)

三、来賓受付 祝賀会 十三時〇〇分 開式 (約二時間)  
四、場 所 九時〇〇分 開始(会費 五千円)  
ティアアラ江東(江東公会堂)

### (一) 記念式典(第一部)

- 開式の辞
- 国歌斉唱
- 校長式辞
- 都教育委挨拶
- 来賓祝辞
- 生徒代表挨拶
- 校歌斉唱
- 閉式の辞

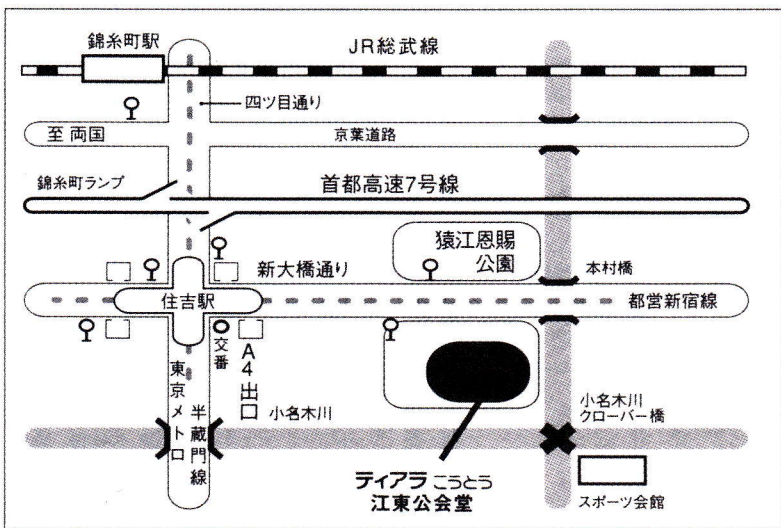
### (二) 記念式典(第二部)

- 開式の言葉
- 吹奏楽部
- 箏曲部
- バトン部
- ダンス部
- 実行委員長(同窓会長) 挨拶
- 応援歌斉唱
- 閉式の言葉

### (三) 祝賀会

- 開会の言葉
- 実行委員長挨拶
- 校長挨拶
- 来賓挨拶
- 乾 杯
- 懇 談
- 《アトラクション》外部団体
- お礼の言葉
- 校歌斉唱
- 万歳三唱
- 閉会の言葉

●会場までの地図





新評議員のご紹介

今春新卒の「第七十四期」の同窓会連絡担当者として、土田竜也さんと、眞利子高志さんの二名が選出されました。  
お二人は、今後、第七十四期の同窓会評議員として活動されることになりましたので、ご紹介いたします。



定例評議員会会議 (5月12日)

各期別 運営協賛金 (平成12年～平成18年3月末)

期 別	協賛金額	期 別	協賛金額
2 期	— 円	20 期	45,000 円
3	—	21	45,000
4	100,000	22	45,000
5	20,000	23	—
6	60,000	24	100,000
7	40,000	25	60,000
8	70,000	26	65,000
9	60,000	27	—
10	65,000	28	60,000
11	15,000	29	40,000
12	45,000	30	—
13	20,000	31	—
14	60,000	32	—
15	60,000	33	—
16	60,000	34	113,585
17	120,000	生徒会役員OB	15,000
18	—		
19	455,000		
合 計			1,838,585円

「創立80周年記念事業」募金の現況  
(平成18年4月1日～平成19年7月17日現在)

3期	30,000円	26期	100,000円
12期	70,000円	31期	30,000円
14期	110,000円	会計人会	50,000円
16期	50,000円	三珠会	50,000円
17期	100,000円	個人 11件	116,000円
22期	220,000円		
23期	35,000円		
合 計			961,000円

18年度会計報告及び19年度会計予算について

平成18年度 会計報告(A) (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)		平成19年度 会計予算(B) (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)		前年度比 (B-A)
収入の部	円	収入の部	円	円
前年度繰越金	10,029,210	前年度繰越金	9,933,573	▲95,637
74期会費	1,246,000	75期会費	1,316,000	70,000
運営協賛金	125,000	運営協賛金	2,000,000	1,875,000
利息他	3,498	利息他	5,000	1,502
合 計	<u>11,403,708</u>	合 計	<u>13,254,573</u>	
支出の部	円	支出の部	円	円
理事・評議員会	276,592	理事・評議員会	300,000	23,408
総 会	198,121	総 会	0	▲198,121
OB団体交流会	0	OB団体交流会	100,000	100,000
校歌祭	108,780	校歌祭	150,000	41,220
同窓会報	445,470	同窓会報	500,000	54,530
慶弔費	50,616	慶弔費	100,000	49,384
活性化活動費	0	活性化活動費	100,000	100,000
母校部活動支援	200,000	母校部活動支援	200,000	0
就職活動支援	33,915	就職活動支援	100,000	66,085
通信費	5,560	通信費	30,000	24,440
事務費	15,570	事務費	50,000	34,430
支払手数料	840	支払手数料	30,000	29,160
卒業証書入れ(筒)	134,671	卒業証書入れ(筒)	143,000	8,329
創立80周年寄付	—	創立80周年寄付	2,000,000	2,000,000
小 計	<u>1,470,135</u>	小 計	<u>3,803,000</u>	
次年度繰越金	<u>9,933,573</u>	次年度繰越金	<u>9,451,573</u>	
合 計	<u>11,403,708</u>	合 計	<u>13,254,573</u>	

残高の部 (次年度繰越金)

[収入の部] 11,403,708円 - [支出の部] 1,470,135円 = [残高] 9,933,573円

平成19年4月1日 会 計 辻井 正巳 (印)  
会 計 田端 彰 (印)  
監 事 浅野 修一 (印)  
監 事 鶴ヶ谷義徳 (印)  
監 事 古田 勝一 (印)



趣 旨 書

第五代同窓会会長  
都立三商八十周年記念事業

実行委員長 木戸隆吉

明年平成二十年一月三十一日は、都立第三商業高等学校創立以来、八十周年を迎えます。

改めて時代の流れを痛感し、学校を中心として、同窓会、PTA、財団「東京三商会」が協賛して、平成二十年一月十二日(土)江東区施設「ティアラ江東」に於いて記念式典、記念祝賀会を挙行政致します。つきましては、準備のため費用を試算いたしましたところ、同窓会としては、金貳百萬円の拠出となりましたので、卒業生の皆様には、支出多端の折から恐縮ではありますが、ご寄付願う要綱は下記の要綱の通りとなります。

どうかこの趣旨にご賛同下され、何卒ご理解、ご協力を、伏してお願ひ申し上げます。

同窓会は、理事、評議員諸氏と同窓生の一人でも多くの方々の交流を深めるため活動してきました。前回(平成十二年度)の協賛金募金には、多大のご寄付をいただきましたが、生徒少子化のため収支相償わず、同窓会会計の収入として、赤字の補填に終始し、本意に至ったことを紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

なお、学校へは、就職活動費、クラブ活動助成金、卒業生に送るお祝い品等、三商発展に寄与しておりますが、何卒ご援助、拠出の程お願致します。なお、平成二十年の「同窓会報」は、特別記念会報として各期の寄付状況、各個人の寄付状況、各団体グループ会の寄付状況等を掲載し、永久に三商史に残るよう留めて参ります。加え、立派な八十周年になりますよう、衷心より懇願申し上げる次第であります。

実行委員長 木戸隆吉  
副実行委員長 富張勝三  
副実行委員長 鬼澤好男

寄付金  
ご支援の  
要綱について

1. 寄付金額の口数及び単位

各 期	1口：金 10万円 (目標金額)
各団体 (OBクラブ活動)	1口：金 5万円
個 人	1口：金 2千円

2. 納入先 ①三井住友銀行深川支店 (店番号804)

普通預金 (口座番号) 3148384  
口座名義人 都立第三商業高等学校同窓会

②郵便振替口座NO. 00150-3-741540 口座名義人 都立三商同窓会

3. 納入締切日 平成19年12月25日まで

(お振込みの祭は、個人名、卒業期を、また、団体・グループ名の場合には代表者名を記入して下さい。)

校長から中学生の皆様へ

本校は創立七十九年目(昭和三年創立)を迎える歴史と伝統のある商業学校です。本校で学び、本校を巣立った同窓生は約二万五千人に達し、実業界の中枢で活躍し、その優れた力量は大きく評価されています。

良き伝統を継承し、商業教育を幅広く「ビジネス教育」として捉え、生徒の夢を百%実現できる新たな三商としてリニューアルしました。

校長 柴田 哲

教育課程 (平成十九年度入学生用)  
詳細は三商ホームページ掲載

生徒の進路希望を百%保証するために、大学入試にも就職試験にも十分対応可能なカリキュラムへと改定しました。本校のカリキュラムの特徴は、次のとおりであります。

① 生徒の学習到達度による習熟度別授業や少人数制授業、複数の教員のチームティーチングによる授業等、生徒一人ひとりの適性・能力に対応した授業

② 商業の専門性を深化させる二年次の「商業選択」(四単位×二講座履修)

③ 大学入試に対応した授業や幅広い教養を身につける授業等、進路希望や興味・関心に対応した二・三年次の「総合選択」(二年次四単位、三年次八単位)



# 平成十八年度 同窓会定時総会

総会実行委員長

二十五期 鬼澤 好男

平成十八年十月二十一日(土)午後二時より、江東区住吉二丁目「ディアラ江東」を会場として都立三商同窓会定時総会を開催致しました。

第一部として、三十一期三浦康二さんの司会進行により母校在校生との交流会を行いました。三商祭のモチーフとしてバトントワリング部及びダンス部の若さ溢れる素晴らしい演技に同窓生一同大喝采でした。そして同窓生と在校生仲良く「里の秋」、「旅愁」、「涙そうそう」、「校歌」を大合唱、青春時代を満喫し交流会を終了しました。

休憩後、十九期の卒業生であり、作家の大村彦次郎さんの記念講演「文学あれこれ」との演題で、池波正太郎さんを始め、大佛次郎、吉川英治、山本周五郎、司馬遼太郎さん等、時代小説作家の友人関係・家庭環境・金銭事情等知られざるエピソードを織り交ぜながら各人の素顔を紹介され、更に小説が生まれた背景についても裏話を交えて一時間を超えてお話を聞き、同窓生一同たっぷりと勉強を致しました。大村さんには紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。

第二部として、二十六期の古田勝一さんの司会進行により平成十八年度定時総会を開催致しました。

故人となられた同窓生諸氏に対し黙祷を捧げた後、木戸会長の挨拶に続き、ご



来賓として柴田校長先生のご挨拶を戴きました。続いて二十五期柴崎晴雄さんより会務報告、二十七期辻井正巳さんより会計報告、二十六期古田勝一さんより監査報告が行われ了承を戴きました。最後に司会者より理事の紹介を行い終了致しました。

続いて二十九期土方さんの司会進行により懇親会を行い、参加された同窓生諸氏が和やかに歓談し、楽しいひと時を過ごし、各期毎に自己紹介を行い、最後に一番若い四十九期星名恵子さんの自己紹介と合わせ閉会の言葉をもちつて午後六時三十分、総会を終了。「一生勉強一生青春」との言葉を体感した一日でした。

今回の総会にはより一層のご参加をお願い申し上げます。

## グルーヴ

### 活動報告

#### 三水会活動報告

二十九期 土方 敏之

平成十八年は会員も減ってきており、先の見通しもつかない昨今の事情を考え、三ヶ月に一度は会食をして会う機会を多く持とう、の方針により、二月の新年会、五月に柳橋「京亭」、八月に小松川の「平八」、十一月に会員である二十八期の谷島くんのお店「百味亭」にて会食会を開催しました。本年は一月十六日に昨年と同じ神田「その田」にて総会そして新年会を開催致しました。久しぶりに美味しい料理を食し、新年にふさわしい心も腹も満足した。新年会の出発となりました。

#### 「らんぷの仲間」パートII

二十六期 古田 勝一

四十四号の同窓会報で「らんぷの仲間」につきましては紹介させて頂きました。三商生徒会が産声をあげたのは昭和二十四年、半世紀以上前のこと。その十年後つまり「第十代生徒会」を預かった仲間

です。

前回は三浦海岸にある「マホロバマインズ三浦」への一泊旅行でした。

今回は昨年の十月二十二日より神戸市の国民宿舎「シーバル須磨」に一泊旅行をして参りました。

神戸在住の吉本 舜さんが宿泊の手配、散策コースのプラン等々、綿密な企画をして下さり、中野千代子さん、鈴木博子さん、両女史が幹事役を引受けて下さいました。その日の夜は、和やかな団欒：三商校歌を懐かしく斉唱、しめくりに詩吟の「総範」「師範」の更(更に)上の資格を持つ中野千代子さんが、須磨の海に因んだ詩を素晴らしい声で吟じてくれました。

翌日は、吉本 舜さんの案内で、新神戸駅より散策開始、神戸北野の異人館界限、そこから見下ろす神戸：。昼食はポートライナーで対岸のポートピアホテルの展望レストラン、そこから見下ろす神戸全景：。

そして、人力ではどうすることも可能な地震の恐ろしさを伝える「防災未来館」見学。快晴に恵まれ、美しい活気に溢れた神戸を満喫することが出来ました。

又、本年四月八日には志村泰男氏を中心に三郷の江戸川河川敷にて、皆小型スコップを持つての「のびる採り」をこれ又快晴の下、行いました。

あの時計塔のそびえる三商の校舎「生徒会室」で活動を共にした仲間が四十八年経ってもこうして、健康で語り合える



幸せを感謝いたして居ります。以下はら  
んぶの仲間の氏名です。

内山たか子、加藤博子、鎌形泰央、志  
村泰男、鈴木博子、鶴岡恒夫、豊田紀雄、  
長尾久美子、中野千代子、根岸秀満、橋  
本宣一、樋口昭男、藤村栄三、吉本 舜、  
和氣賢三郎、大塚英紀、齋藤純代、古田  
勝一、以上「らんぶの仲間パートII」で  
した。

私は二十六期の一員です。二十六期は  
毎年欠かさず同期会を開催致して居りま  
す。昨年は六月十七日、今は無き錦糸町  
のロッテ会館にて清田 実幹理事長の下、  
盛大に行われました。



### 《三商OB団体交流会のご案内》

日時：平成十九年十月二十日（土曜日）午後五時三十分

場所：「東天紅」（第一ホテル両国二階）

【墨田区横網一丁目】

（電話〇三―五六〇八一―一〇一五）

会費：六〇〇〇円

対象：同窓生で組織する団体（業界・職域・  
クラブ活動OB会等、奮ってご参加く  
ださい）

連絡先：東京都足立区西新井栄町

一一一九―三九―一〇〇五

柴崎 晴雄

（FAX・電話〇三―五六八一―一三九八）



### 東京校歌祭参加のご案内

第十五回東京校歌祭が今年も日比谷公会堂で行われます。今年も十七校の参加が予定されており、特別参加として日本寮歌振興会より、旧制第六高等学校（岡山）、旧制第八高等学校（名古屋）、旧制北海道帝国大学予科（札幌）、旧制東京商科大学予科の四校が参加されます。

日比谷公会堂の壇上で校歌、応援歌を思い切り歌い上げ、我々三商OBの心意気を存分に発揮しようではありませんか。今年こそ百名の大合唱を成し遂げるべく頑張っておりますので、一人でも多くのご参加をお待ちしております。

校歌祭終了後、同期会、クラス会を企画されているところもあります、大変おすめです。

要項は次の通りです。

### 記

日時：平成十九年十月六日（土）

場所：日比谷公会堂

会費：無料（終了後反省会を予定しています。会費四千元）

集合時間：十五時三十分

集合場所：日比谷公会堂の階段の下の広場。

（三商の職が目印です。受付を階段の上で行っておりますので必ず受付を済ませてください。）

三商同窓会

校歌祭委員 杉本 光男

電話〇三―三六二三―二一八五



### 三商会計人会活動報告

第二十二期 荻野 弘康

本会は、三商卒の税理士と公認会計士を会員とする親睦と母校の学習の充実等を目的として、平成四年十月に設立され、活動に濃淡はあるが十六年目を迎える。

現在も母校の市民講師として石川昭会員（第二十五期、昭和三十三年卒）を派遣し、学習の充実のサポートをさせていただいている。当会会員の今日あるは母校あつてのことであり、会員一同心から感謝しているところである。

また、当会の総会や新年会には柴田校長を始め、同窓会から木戸会長、柴崎事務局長のご出席を賜り、近況報告等をお願いしている。「三商創立八十周年記念行事」についても、木戸会長よりご案内があり、本会としても応分のご協力と本会会員への呼びかけを行うことといたします。

母校の発展と会員諸兄弟のご健勝を祈ります。



### 檜原村賛歌二人展

開催について

三文会（十八期） 秋長 政吉

三十年に及び檜原村の風景風土に惚れ込み、写真を撮り続けて来た石塚岩雄氏（三十一期【写真右】）、と共に「東京のふるさと檜原村」で、私、秋長政吉（十八期）の木版画とによる「檜原村賛歌二人展」を彼の地の観光協会よりのお声掛



りて本年（二〇〇七年）五月から六月まで二ヶ月間の予定で（会場檜原村地域交流センター）で展示開催いたしましたところ大変好評を戴き、朝日タウンズ多摩西トピックス（五月十七日付）に写真入で。

又、東京新聞（五月三十一日付）にも写真入で、又、共に大きく記事掲載して戴きました。その上、NHK（総合テレビ六月十五日PM六時十分）の首都圏ネット「私の好きな檜原村」で放映して戴きました。「深川タウン誌はじめ他新聞に開催記事のみの広報もし、て戴きました。

石塚岩雄氏と私は身にあまり好評に驚きつつも、永い年月（石塚岩雄氏三十余年、私十余年）の成果に嬉しい思いで一杯です。

なお、「檜原村賛歌二人展」は地元観光協会からの常時展示のご希望により会期を決めず展示させて戴く事になりました。

東京（島部を除く）のただ一つの村で、西多摩秋川溪谷美は元より、四季折々の山並みの美しさ、荘厳な滝々、人情味溢れる村の人々、素朴な郷土山菜料理等、到底私がお伝えしきれないので、是非一度お出かけください。

### 【追記】

当三文会の会員の活動に就いては多くの方々が、各自活動的で各分野で先生や講師として活躍して居る方々が多数居られます。

日展に常連出展の川田晃一氏（二十二期）、個展を有楽町交通会館でよく開かれる坂崎光司氏（二十四期）、秋耕展（国立美術館）での萩尾明氏（二十七期）その他、各グループでの展示会、発表会等。・絵画・彫刻・は元より手芸・民謡・奇術・日本舞踊・ダンス・イラスト・諸デザイナー・写真・陶芸等。

当三文会の会員が多方面で豊かに活躍しておられますことをこの紙面をお借りしてご紹介致しました。

### 「檜原村賛歌二人展」常設展示

#### 【場所】

檜原村観光協会 森の学校内 檜原村地域交流センター（毎週火曜日定休）

#### 【住所】

〒190-0212

東京都西多摩郡檜原村403

#### 【電話】

042-598-0069

#### 【交通】

中央道八王子ICより24Km

JR武蔵五日駅バス25分

元郷下車



# 各期 活動報告

## ◆十一期(FG会)

岩田 福治

十一期(入学時七組、約四百名)の連絡は長らく矢作福正君(東食通信室長)が一生懸命やってくれていたのですが、惜しくも鬼籍に入ってしまった。その後を森光義君が同様にやってくれましたが、彼もまた鬼籍入りしてしまいました。

思えば十一期生は日中戦争勃発の翌年に入学し、太平洋戦争勃発の翌年に三ヶ月繰上卒業という戦争を忘れることの出来ない時代に三商生活を送りました。

米軍の初空襲(ドーリットルによる「一七、四、一八」)は、校庭でその低空の機影を見、投下した爆弾が後ろの運河に落ちて水煙の上がるのを見ました。こんな訳で卒業後は陸士、海兵、それに徴兵年齢の引下げ等で軍服を着た者も多数おりました。

さらに東京下町の空襲もあって同期生の連絡もなかなか取りにくかったかと思いますが、右記両君他の努力で名簿も揃い、何回かの同期会も

たれましたが、最近は全員集合はなかなか出来ないのが実情です。この中でF組とG組に籍を置いて者がほぼ毎年会合をもち今年も十一月十一日に浅草の「葵丸進」に十八名が集まって旧交を温め最後に校歌を合唱して散会しました。会では市川国府台の「環山荘」での授業、その帰りにお邪魔した新婚の萩原静夫先生のお宅での話と先生の訃報、佐藤義美先生の豊後竹田の記念館訪問の報告なども含めて盛会でした。全員が八十二歳の来年も集まります。代表坪田忠雄君、世話役矢吹省三君です。



## ◆十二期会(傘寿会)報告

吉岡 鶴義

「大正は遠くなりにけり」と言われますが十一期全員がもう一度元気に集まりたいものです。(写真は当日の十一期FG会の諸君)

我々三商十二期生は、今年とうとう八十歳を迎えた。所謂「傘寿」である。母校を昭和十八年十二月、当時は太平洋戦争真只中の為、本来十九年三月卒業の所、その前年十二月の繰り上げ卒業となった。以来六十三年を経過したことになるが、この間昭和四十年頃からは、二、三年毎に一度、同期会として開催されてきた。

ところが平成十一年を境に途絶えてしまったのである。その理由の一つには、我々の中心的存在で、卒業以来母校三商の教諭として勤務、定年退職後も何かと面倒見のよかった、古暮氏の病死と会長大嶽氏もご夫人の病気で、外の活動が出来なくなった事であった。ところが年齢八十を過ぎても元気一杯の人も多く、「十二期会は一体全体どうなったのかね?」と云う問い合わせも又、しばしばであった。

実は斯く言う私も、母校三商に三十四年間も勤務、お世話になった躰、陰ながら古暮氏の手助けをさせて頂いた関係もあり、いささか責任を感じていたので、今年こそ傘寿を記念して同期会を開こうと決意した。然し私一人ではどうにもならない為、従来からの幹事の皆さんに準備委員会として集まって頂いた。

三月三十日、十名程集まったが、

問題に突き当たった。今迄会の事務的な担当の吉清氏が駅の階段で転倒、背骨を痛めて入院中、意識不明と云う家族からの報告。過去十二期会の名簿、会計等が一切分からなくなってしまう。その後、ご家族の協力もあり、何とか名簿は整ってきたが、今まで全く知らなかった事実も、次々と報告されて、大変驚いた。

それは吉清氏が旧第二本科であった事は承知していたが、その第二本科のメンバーのみで、FG会と云う会を作り、卒業後は定期的に活動してきたと云う事実。また、旧五年三組は、我々十二期の中でも優秀な生徒ばかり集めた超エリート級として知られているが、これは卒業以来ずっと「友綱会」として毎年クラス会を開いていると云う事も判明した。

当時の学校行政を創り出した学長の姿勢が、このようなかたちになって行ったものと考えさせられるものがあった。

何れにしろ中心な十二期会の活動は旧五年一組、二組就職組のメンバーだった事は間違いな



とである。しかし今は苛酷な戦中、戦後を生き抜いて来た同志であり、お互いに何の蟠りもない仲間である。今回は特別記念の傘寿会だからと、FG会代表河崎氏、友綱会代表大門氏等の合意を得て(その後、友綱会は堺氏、田中(鎮)氏と交代)準備委員会を三



再開くことが出来た。  
 第一回 三月三十日  
 東天紅深川支店  
 第二回 八月四日  
 江東区文化センター  
 第三回 九月九日  
 東天紅深川支店

委員会の決議によって次の如く承認。

会期 十月八日 場所 東天紅深川支店。

事前に有志のみで母校三商祭訪問、見学。引出物として伊勢屋の紅白饅頭

因に、東天紅は三商五期生、小泉一兵衛氏創業の有名レストラン。伊勢屋は三商二十二期生、本間莊一氏社長の深川不動尊前の老舗。和菓子店。と全てを三商ゆかりの店と決めた。

十月八日、午前十一時、母校訪問見学。

希望者は十四名だったが、欠席者二名、十二名は校門前に集合、校長柴田先生、副校長先生を始め、生徒三商祭実行委員二名等の案内により、先ず、故古暮氏揮毫の校歌モニュメント、校舎前階段にて記念撮影後、校舎内に入りいろいろな展示物、催し物を見学。三々五々約一時間程堪能することができた。

傘寿会（東天紅深川支店）午後二時開会。参加者四十名、挨拶、会長大嶽清氏。F G会 河崎三千夫氏。友綱会 堺高基氏。現学校長 柴田哲先生と続き、乾杯の音頭を小林盛夫氏と進み懇談に入る。懇談中、小話として予科練の苦勞話を、高橋英臣氏。江戸期の歴史と題して、芳賀登氏（元筑波

大副学長）のレクチャー等が入り、二時間半の持時間はアツと云う間に過ぎ去り、最後に全員の記念写真を撮り、無事終了。記念の引出物、紅白饅頭を手土産に散会した。

散会後の反省会

今回の名簿整理で判ったことは、我々十二期生は入学時（昭和十四年）七組（A-G）三百五十名だったが、現在は物故者百七十五名と丁度半数、病氣又は療養中は約百名、今回出席者四十名を引いた約三十五名は住居不明であった。我々の年齢から考えると、成程と思うが、一方寂しさも胸をうつものがある。

何れにしても、今回の盛会は準備委員メンバーの協力の賜とお互いの労をねぎらった。次回の提案はあったが、後二三年は様子を見ることとなり、更に積極的な意見は無かった。

【追記】

傘寿会の参加費は八千円、会計担当の菅原、岡崎氏の報告では、三万一千円の残金とあった。この残金の使途については、程々意見はあったが、結論として  
 (一) 母校の弥栄を祈念しての植樹、寄贈  
 (二) 母校創立八十周年記念行事（平成二十年）への寄付  
 以上二点として、委員会の承認を得た。

(一) 記念樹の寄贈  
 平成十九年一月二十七日、楊貴妃と云う名の桜苗木一本、校舎表校長室前に校長柴田先生、事務長、大嶽会長、立合いのもと植樹した。

その後三月三十日その桜が見事開花したと、写真数葉入りで、校長より報告があった。  
 (二) 残金の一万円は、同窓会事務局へ送金予定  
 傘寿会準備委員会メンバー

(敬称略、順不同)  
 平山真一郎・大嶽 清・内藤 登・岡崎 茂・大門博史・勝浦輝男・小林盛夫・菅原金造・河崎三千夫・田中鎮雄・堺 高基・吉岡 鶴義  
 以上十二名



◆十七期会 飯田 幸男

◆行事報告

《一泊旅行》

平成十八年六月四日箱根仙石原ホテル箱根小塚山泊。加齢を考慮、今回は「安近静」旅行を実施。GWも終わった静かな山間の宿で乳白色の温泉に浸かり寛いだ一夜を過ごした。参加はいつものメンバーの十一名。  
 夕食後はカラオケで腹ごなしの

後、幹事部屋に到着き、飲み直し、在校時代の昔話に時間を忘れ、話が弾んだ。翌朝食後、次回の再会を約して帰路につく。

《グルメの会（暑気払いを兼ね）》

今年から飲めない会員が集まれるようにと、アルコール抜きで美味しいものを食べる会を企画。八月二十六日母校に近い佐賀町華福寿（オーナーは元銀座アスターのメインコック）で中華料理を堪能。予想外の十九名の参加。如何に加齢とともに飲めない仲間が多い事か。好評につき、来年も実施。

《校歌祭》

十月七日（昨年）、日比谷公会堂で。伴奏の音響効果が悪くテンポが合わず最悪。終演後、前年同様富国生命ビル地下「こだわりやま日比谷店」で例会。参加十六名。

ビールの味は格別だったが、今回は他期と合同で盛会、喧騒で話も出来ず来年（本年）は場所を要検討。

《忘年会》

十二月十日。於三菱養和会果嶋バルテール。参加十七名。生田、溝口、岩田、渡邊(三)、の諸兄ひさしぶりの参加もあり盛況。この一年の無事を喜び、来年の息災を祈りながら、鍋を囲み歓談。

《お花見》

平成十九年三月十八日、志賀兄の企画で市川の文学

の道の桜並木、手児奈堂、真間山弘法寺のお花見。今年は暖冬で開花が早いとの予報であったが、開花間際に寒波再来。  
 最後に弘法寺で、しだれ桜を観桜して溜飲を下げた。

我が会は「花より団子ならぬ酒」の口。市川駅前「神田子」で花見酒。参加十二名。花はなくても一同大満足。

◆その他

十七期も大半が今年喜寿を迎える加齢と共に健康を損ねる会員が増加。幸いにもこの一年計報を受けずに経過したが、今後も聞かないよう互いに健康に留意して日々を送ろう。



平成18年12月10日 於三菱養和クラブ



◆二十一期会 大熊 勇司

平成十八年九月三十日(土)正午より、錦糸町の東武ホテルレバンテ東京「ベルカント」にて、七十歳節目の二十一期(昭和二十九年卒)同期会として盛大に開催されました。

出席者は六十余名で、内女性十名が花を添えました。

昭和二十九年卒業後、五十二年の経年と共に健康上の理由と、物故者による参加者の減少はわかっていても寂しいことである。特にお世話になった先生方が健康上の理由等で、一人もご出席して頂けなかったのは残念でした。

しかし恩師の八名の先生方の写真パネルを掲示すると同時に一組から八組までの自分達の卒業写真も掲示して、三商時代を思い出し、懐かしく語り合うことが出来ました。懇親会も久しぶりの友との歓談を中心に進めましたが、予定時間では語り足らず二次会の「カラオケ館」錦糸町店へと会場を移して、歌にお話にと過ごし、楽しい一日が終了しました。

全員の記念写真もお帰り時にお渡しすることが出来ました。各組幹事のご協力に感謝いたします。

最後に三商での青春の出合いはお金では買えない大切な宝です。それは心のふるさとであり、ふるさとがあるからこそ、今の自分があることに気付かせてくれます。またそのふるさとを思うからこそ、あしたも前を向いて歩いて行くこうとそんな気持ちにさせてくれるからなのかもしれません。



◆二十八期 近況

二十八期生(昭和三十六年卒業)は、多くの方が六十五歳を迎えます。四年毎に同期会を開催する決まりで交友を温めてきました。来年の同期会開催に向け、準備を開始しました。各クラスの近況をお知らせします。

(四組)

齋藤克先生傘寿をお祝いするクラス会開催。五月十九日齋藤先生傘寿のお祝いを兼ねた、四組のクラス会を上野の「音音」で開催しました。

先生のお祝いということで、二十四名の方が出席し、盛会になりました。出席者皆で先生の傘寿をお慶び申し上げ、祝杯をあげました。盛り上がった会は三次会まで行われ、深夜まで青春時代に戻り、語り、たのしみました。

そして、残念なことは、昨年は三名(桜田・渡辺君・馬場(旧姓鈴木)さん)が亡くなりました。ご冥福をお祈りします。

又、今年から東京シテイガイドの資格を持つ、内田君の発案で「お江戸さんぽ塾」を開催し、二時間位の散歩を兼ねた名所旧跡巡りと、懇親会も始まりました。

記 久保田

(七組 担任故小暮敏雄先生)

三月九日久しぶりに、二十名のモサ連中が会し、さらにプロ野球ではありませんが、同期各クラスとの交流戦を行い、六名の方々の出席をいただき計二十六名で、銀座「ロアジス」で開催。

冒頭十八年に逝去された恩師小暮先生と十九年に逝去された同志市東君を偲び黙禱、献杯後当店自慢のフランス料理に舌づつみ、徐々にピッチが上がり、二十年ぶりに再会する人もあり、昔に戻り、和気藹々。

鈴木孝一君の迷司会で、ギャラリーのチャチが入りながらの、二十六名全員の近況報告が行われた。宴たけなわの中、次回の予定、二十年の同期会の予定などを話し合い、最後に「高校三年生」を大合唱して散会した。

記 鷲

(三組 担任故吉田久登先生)

四月二十二日クラス会を開催し、十六名の出席を得た。にぎやかな宴を持ち、交友を温めました。

記 古田

(八組 担任故磯川運良先生)

先生が逝去されて、十年になります。募参会を兼ね、クラス会を秋に予定しています。

記 伊澤

◆二十九期会 濱地 昭雄

平成十九年一月二十六日、門前仲町「喜寿司」にて、新年会、幹事会を開催して、本年に開催する同期会について、十一月四日に開催する事と七月二十日に細部について幹事会を開催して定める事を決め、幹事会を終了しました。

続いて新年会に移り各同期生動向や、身の廻りの出来事についてしゃべり合いました。とにかくいつも賑やかな酒のうまい集まりで楽しみます。



# 創草期の 母校二題

二期 橘川達郎

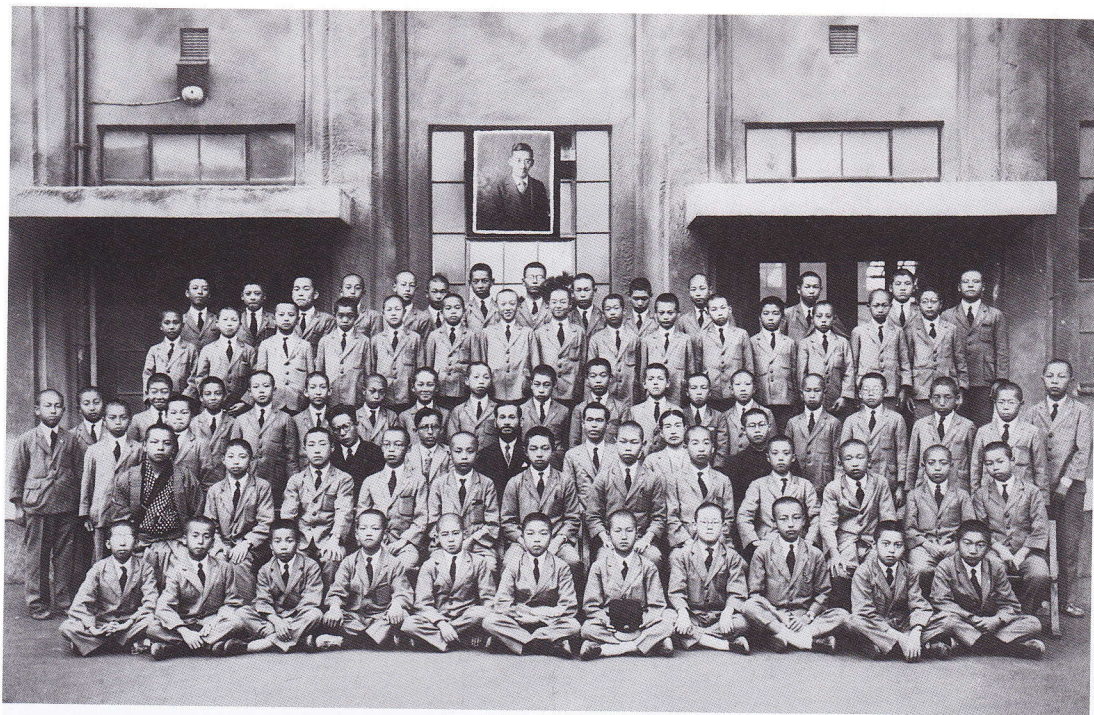
## (一) 揚げ雲雀 舞ひ歌ひし 三商の空

數矢小学校の三階を借りて授業を受けていた私達一、二期生であったが、越中島の新校舎も半分ほど、時計台も含めて完成したので、机や椅子を銘銘で担いだりリヤカーを借りたりして、長い行列を作つて越中島まで運んだのであった。今ならトラックをチャーターしてアット言う間に引越しを完了するであろうに、昭和初期のあの頃としては、こんな事が当然の様に思はれたのんびりした時代であった。我々はあの長い道のりを別に隊列を整へるでもなく駄乗り乍らダラダラと荷物を運んだのであった。そして第三期生を新校舎に迎へる事になったのであった。この三期生から制服は半ズボン（下級生のみ）となり、当時非常に珍しかった背広のスマートな服制が確立したのである。

不動尊前、或いは數矢町から幾つか橋を渡つてやつて来た越中島は、どっちを見ても埋立てたばかりの様な空地ばかりで、商船学校や隣地の水産講習所はあったが、倉庫は所々にあるにはあったが、民間の家など

なく、三商生をあてこんだらしいパン屋、それと三商の隣地の半分水浸しの様な湿地帯に極めて貧しげな掘つ建て小屋がある位であった。広々とした空地には、たいいてい海苔が干してあった。空は飽く迄広く澄み渡り、西の空には遠く富士が望めるし、対岸には海水を隔てて民間の飛行場、滑走路に練習機が離着陸

をくりかえし誠にのどやかな風景であった。そんな時、天空からピーチクパーチク、きれいな鳥の音が響いてくる。揚げ雲雀である。ひばりを飼つて上天気の日、空に放つてその歌声を楽しむ。この様な床しい高尚な趣味の江戸人がこの辺に居るのだと気がついた少年時代の私であったが、とて



數矢小学校での我々二期生の一年生の頃。校長の左右に仙波、佐藤、田中尚、大久保先生の顔が見える。上の枠は、池永副校長。



三商、夏休みの行事“奥の細道”に同行を希望したミスターウェブ記者。場所は入善と思われる北陸。

も豊かな心を与えられたのであった。なんと風流な心か。あの頃ののどかさ、のびやかさ、おどかさ、がたまらなくなつた。

ついでに言うとう錦糸掘と言つたあの町の夕暮れ時、ヒラヒラと空を舞う鳥とつかないものが乱舞していた。友に聞くとこれが蝙蝠だといふのだ。

揚げ雲雀と云い、蝙蝠と云い、もうあのあたりでは見る事も出来ない風物である。

以上 平成十九年四月二十日記  
(原文のまま登載しました。)

## (二) 初期の三商を 訪れた名士達

初代校長曲川 吉沢徹先生は、三

商校長を拜命するや、多年暖めた教育上の理想を矢継ぎ早に実行し、独特の校風を形成して行った。曰く対人実習、対物実習、地域別区制、上下級生との一対一の指導制、校長会食、その際の食前感謝の辞、悠々会、端午会、謡曲の授業、当時としては全く珍しい背広姿の制服、夏休みも連年続けた芭蕉の奥の細道の全行程の踏破、「大空・浅緑」、舟艇の購入、市川に環山荘の設立、英語の

徹底暗誦、入学試験廃止等々枚挙に遑ない是等の方法、方針の強行実習は特別で、凡百の教育者のとても考えつく処ではない。

今更先生の偉大さを想起するのである。だからこそ没後数十年に亘り多磨霊園に各期集い、御遺族、旧師其々募参会に参集し、その徳を偲んだのであり、美談として新聞にのつたのであった。

越中島に新校舎が出来、二期三期二期と工事も進み講堂も完工し、校長の人脈と思はれる名士講話などで来校される方も出てきた。

先ず、●三室戸敬光子爵(明治六十年生まれ) お公卿さんである。貴族院議員で当時硬骨の議員として知られ、台頭し始めた軍部を議会に於て徹底的に叱り飛ばす人であった。三商で謡曲を毎週教えて下さった松平鉄之助子爵(旧小幡藩主)の口利きであったかと思われる。

この松平子爵のおかげで三商生は毎回喜多流の謡曲をならった。校長の教育方針の中で実業界に出る三商生は、社会に上流の人の知己を得る事が大事だ。それには貴顕紳士のたしなみを習得し、教養として身につけておくべきとの持論による。



たしかにこれらの教養・知識は後年どれ程役立つたか分からない。余談だが卒業後我等同期で近年まで謡の会を毎月開き、「三謡会」として交歓の場として居り、又或る者は、大銀行の重役にまでなったが、喜多流の能のシテとして国立能楽堂に演じた程になった。

●勝田 主計 明治二年生

東大蔵省人省貴族院議員となり大蔵大臣、浜口内閣で文部大臣にもなった。

こんな有名な人がわが校に来られ講演されたには驚いた。それについてもこんな大物と呼ぶ事が出来る校長なんてめったにあるまいと当時思った事である。大臣なんて今は大部長が落ちたが昭和初期の大臣とは超大物であった。

後年松山に遊んだ時、漱石の記念館に行った折、この勝田さんが松山の出身である事が分かった。ここで吉澤校長が松山商業の頃、以来旧知の仲だったのかと思った。

勝田氏の当時の講演題は「寒山拾得」であった。少年時代こんな講話を聴く事が出来たのは幸福であった。

●前田 利為 公爵 陸軍大将

三商も軍事教練が始まり本村千代太少佐が配属将校として赴任して来られた。この本村さんの事は大分以前、三商の新聞に詳述したので読んでみて下さい。

当校に配属されたので、年一回聯隊長が教育成果を検査に来る。これは査閲と云ふのである。前田大将は当時大佐で聯隊長であられたから査閲官として来校されたのであ

た。何しろ加賀藩の殿様であるから大した格式の方であった。

●一龍齋貞山

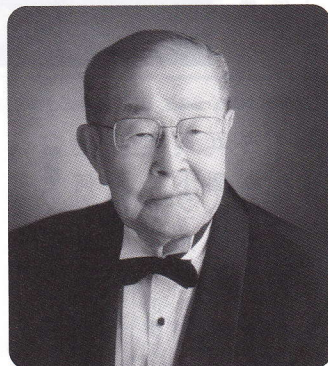
講談界の大名人として当時超一流の講談師であった。演目は「亀甲編」であった。商業人にふさわしい演目であった。名調子であった事が印象に残る。

●大中 寅二

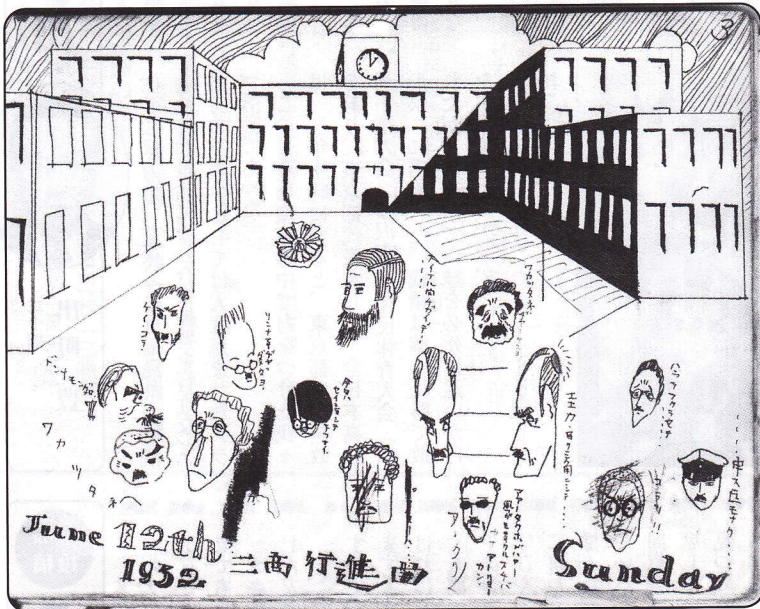
校歌作曲者 山田耕筰の弟子として作曲者の代わりに、校歌を教えに来たのであった。当時はまだ無名の音楽人で私も知らなかった。この先生が校歌を教えに来校した。音楽好きの私はこの名はよく覚えていた。後年、ラジオで椰子の実が有名にな

った。ドイツに留学された氏は、麻布の靈南坂教会のオルガニストとして有名であった。子息が大中 恩、中田 喜直親子と共に日本人この二組の親子に感謝しなければならぬのである。

(原文のまま掲載いたしました)



最近の私です。今秋、催されるコンサートのために撮った写真です。



三商の先生方を描いた漫画です。

## 古風に生きる

十期 荻野文雄

十年使っているが、実に書き易い。専用のインクビンにペン先を入れて後部を回しながらインクを注入する手間も宜しい。

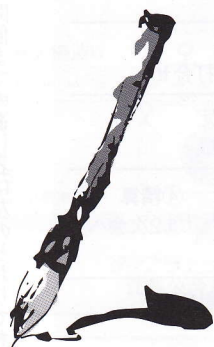
手紙も日記も万年筆で書く。

三十六年前勤めていた会社から永年勤続の記念品としてネジ巻き腕時計を頂戴した。

二十年経つたら動かなくなった。捨てるに忍びず、机の中に仕舞って置いたが、最近のアンティークブームで、あるいは、と今年の一月に銀座の店に持参したら、見事に活き返らして呉れた。十六年振りに文字盤に針が廻り、カチカチと音がきこえてきたのには全く感動した。

それは一緒に苦労して働いてきた昔の仲間と再会したような懐かしさであった。

(二月五日 記)



真冬でも素足に下駄か草履を履いて買物にゆき、散歩をしている。深川っ子の子供の頃からの習慣だ。靴と違って、左右どちらでも通用する。融通無礙(ゆうずうむげ)だ。

また、つとめて和服か浴衣を着る。寛いだ気分になれる。

夫婦二人の食生活は和食を主としている。五分搗米、味噌汁、納豆、豆腐、野菜、魚。体に適っているように、頗る健康に暮らしている。ただ、芋焼酎を呑みすぎないよう女房が心配している。

下手の横好きながら墨書を好む。年賀状は宛名も賀詞も毛筆で書く。親父が遺した端溪の硯と栖の木製の硯箱。親子二代で七十余年を使い込んだ。

テリトリ(地域)を定めて道路の清掃をしている。鉢巻を締めてヤル気を出す。ホースで打ち水すると清々しい気分になる。

ドイツのモンブランの万年筆を愛用している。

この重厚なデザインの万年筆を二



一般投稿

# バレー部の思い出



二十期 出町 豊

一九六四年、東京オリンピックに男子バレーボール選手として出場した。当時のバレー界は、日紡貝塚チームを主体とした女子チームが、東洋の魔女として喧伝され、国民的な人気を博していた。

そんな東洋の魔女の陰にかくれて、男子バレーは目立たない存在だったが第三位、銅メダルを獲得した。銅メダル獲得までの道のりは、厳しく筆舌に尽くせない苦難の連続だった。

そんなことは、ともかくとして私のバレー生活は、高校、大学(明治大)、実業団(日本鋼管)、そして監督時代を含めると二十一年間になる。その間、大学選手権、全日本選手権(天皇杯)、日本リーグを制覇するなど幸運で充実したものだ。

これは、よき指導者、優れたチームメイトに巡り合えたこと、そして何よりもバレーボールをする上で、より良い環境作りをしてくれた、多くの理解者のおかげと心より感謝している。

そんなバレー生活も始まりは高校からである。

昭和二十五年、三商に入学し、それまで野球少年だった私は、兄(十七期)の影響を受けてバレー部に入部した。パス一つ出来なかった私は、バレー部の顧問だった宇梶先生を始め、先輩達に手取り足取り教わりながら、バレーボールに取り組んだ。

三商バレー部は、戦前から活動し、戦後も東京都では常に優勝を競う有力なバレーボールの伝統校だった。それだけにバレーボールに情熱を燃やす先輩も多く、よく後輩達の指導に体育館へ足を運んでくれた。

またバレー界に影響力のあった宇梶先生

生のご尽力で、夏休みには福島県の紡績会社にお世話になり合宿練習を行うなど、当時の高校生としては大変恵まれたクラブ活動であった。

このような環境の中で力をつけた我々は、三年生時になると、東京都では無敗を誇り、東京都代表として、全日本高校生選手権大会(藤沢市)、国民体育大会(山形県)に出場した。戦績は準々決勝で敗れたが、炎天下で白球を必死に追いかけた、当時の記憶が懐かしい。

その時、共に汗したメンバーを記しておこう。



前衛左から、竹原清介、出町 豊、早矢仕昌男。中衛左から、小沼(二年生)、吉田政雄、山本利三。後衛左から、岡田(二年生)、西川 稔、滝沢一男。マネージャー 坪井一郎。同期生(二十期)は八人である。

八人は誰一人落伍者もなく、三年間絆を深めたが、一昨年古希を迎え久しぶりに集まった。往時を振り返って、大いに盛り上がった。みんな年相応に身体は少しガタがきていても、意気軒高。当時の面影を残していた。

一般投稿

# これからの同窓会の楽しみ方



三十期 三浦 康一

クラス会、同期会、同窓会と、様々な単位毎の会が有りますが、ここでは一括して同窓会として書かせてもらいます。ガキ大将に人気者、それぞれに輝かしい時を共有した友と再会したい。それが同窓会です。

そこで同窓会の準備や演出をここで紹介いたしますので、皆さんも楽しい同窓会を開く名幹事となれますよう是非参考にしてみてください。

ければ、きっと最高の思い出となるでしょう。人間の集まりの中で同窓会ほど臆面もなく、センチメンタルな集まりはない。青春のひとときを同じ学びやで過ごした思い出は宝石のようである。一緒に机を並べて学んだ若き日の友が八方に散って、様々な職業や社会に就き、地位や立場や距離が開いているが、

同窓会ではそれが対等になってしまふ。同窓会に出席している間、みんなが原点にもどり、自分自身を見つめる機会でもあり、新たな出発点を見出す可能性もあり、人生の活性化のためにも大いに同窓会を開き、参加をしていきましょう。同窓会基本の「一 幹事役を引受けよう。」

## 《幹事の心得六ヶ条》

- 一、何でもひとりでせずに、仲間と協力を求める。
- 二、予算をしっかりと立て、赤字を出さないようにする。
- 三、一人でも多くの参加者を集めるよう努力する。
- 四、トラブルはつき物。こころに余裕をもつ。
- 五、個人情報の取り扱いに充分注意をする。
- 六、みんなの笑顔が最高の報酬だと思つこと。

同窓会の幹事の仕事をひとりでこなすのは極めて難しい。まずは、仲間を集めて計画を考える。発起人が主幹事となり、一、二名の副幹事を決め、代表幹事の会を作る事から創める。副幹事には気の合う友人を選ぶことはもちろんだが、情報収集が得意な人や、文書や名簿の作成に慣れている人に加わってもらうことも考えたい。さらに代表幹事のほかに、各組ひとりづつ幹事を募り、各組のとりまとめを依頼する。同じ学年でも組が違うと一度も話をした事がないという事が有り、ひとりでも多くの同窓生を集める協

力者になってもらうためである。ここに二〇〇人に案内状を出し、約五〇人が出席想定同窓会の開催までの進行表は左のとおりである。

4~3ヶ月前	①幹事(協力者)集め ②幹事会の開催 ③会場下見後、予約 ④名簿作成 ⑤案内状作成
2~1ヶ月前	①案内状発送
1ヶ月前	①幹事会の開催 ②会場との幹事打合せ
10日~1週間前	①参加人数の確定 ②出席者名簿作成
当日	①会場との打合せ ④精算 ②受付 ⑤2次会へ ③進行
終日	①写真発送、会計報告 ②次回幹事決め

## 当日のの流れ

主幹事が挨拶をして会が始まる。恩師の挨拶に続いて乾杯の発声、その後歓談が始まる。卒業アルバムや当時の写真・文集・校歌の歌詞カード等を会場に用意すると、思い出話に花が咲くでしょう。

## 同窓会式次第(例)

- ①開会挨拶
  - ②幹事会紹介
  - ③恩師挨拶
  - ④乾杯
  - ⑤歓談
  - ⑥近況報告
  - ⑦恩師への記念品贈呈
  - ⑧閉会の挨拶
- 記念写真撮影  
2次会の案内

## 次に同窓会アイデア集

### ●会場について

《グランドプリンスホテル赤坂》

電話〇三(三三三四)一一一一

このホテルでは、

・うたごえ喫茶を再現、アコーディオンやバンド演



奏に乗って青春の歌の大合唱ができる。事前に校歌の楽譜を渡せば伴奏も可能。  
・当日の集合写真や案内状の作成も用意できる。

《帝国ホテル東京》

電話〇三(三五三九) 八五五五

このホテルには、「同窓会プラン」というのがあり、相談に乗ってくれる。

ホテルは宴会に精通するプロが味方となってくれるが、料金が一人九千円と多少高めなのが難点である。手軽に安価という場合には、レストランや居酒屋などの会場もある。

また、屋形船での同窓会は、遅く来ることも早く帰ることもできないので、幹事としては会の進行がし易い。

最後に幹事の全仕事を依頼して、面倒を解消したいという方には「代行サービスでらくらく同窓会」というのが有ります。名簿作成から案内状の作成・発送・出席の確認・会場設定・当日の進行まで全てお任せの同窓会サービス代行会社があります。

**同窓会ネット (TEL.0120-100-378)**  
サービス内容:「同窓会バックオールインワン」は名簿作成、案内状、当日の進行、ホームページ開設。費用は参加人数分

**同窓会サポートシステムビュー (TEL.077-574-6261)**  
サービス内容:代行サービスの先駆的存在。名簿作成、案内状、当日の司会進行、ホームページ開設。費用は参加人数のみ。同窓会企画も提案

**幹事代行COM (TEL.0120-194-256)**  
サービス内容:「同窓会まるごとプラン」名簿作成、案内状、当日の司会進行、ホームページ開設、案内総数の1/4以上の参加が必要。

**同窓会トータルサポート (TEL.03-3265-5911)**  
サービス内容:「らくらく同窓会パッケージ」名簿作成、案内状、ホームページ開設、記念品などが含まれている。出席確認代行も行っている。費用は参加人数のみ

会費の算定と設定の決め方、案内状作成及び出し方、記念品とかアルバム作成とか又、同窓会評判の会場その他たくさん情報が有りますが、紙面の関係上、今回はここまでと致します。  
さあ、これで皆さんの同窓会は懐かしい友が喜ぶすばらしい思い出多き楽しくて有意義な同窓会の開催となるでしょう。

平成19年度 教職員異動者一覧表

平成19年1月11日現在

【転出・退職者】

課程	転退別	教科等	氏名	転出校	備考
定時制	転出	副校長	石坂 敦子	大泉桜 全	
全日制	転出	社会	高橋 五郎	千歳丘 全	
全日制	退職	数学	押切 正徳	勸奨退職	
全日制	転出	理科	赤澤由美子	篠崎 全	
全日制	転出	理科	植松 敏夫	一橋 定	
全日制	退職	実習助手	古川 剛	退職	
全日制	転出	英語	岩倉 光博	大島南・海洋 全	
全日制	転出	保体	國枝 信之	葛西南 全	
全日制	退職	保体	山本鐵五郎	定年退職	
全日制	退職	国語	秋元 文江	退職	嘱託
定時制	転出	保体	越智 勝則	浅草 定	
定時制	転出	商業	手島誠一郎	橘 全	
	転出	室長	石井 俊夫	白鷺養 室長	
	転出	担当係長	木村 俊勝	向島商 担当係長	
	転出	担当係長	高崎 三雄	しいの木養 担当係長	
	退職	司書	江藤のり子	定年退職	
	退職	技能	渡辺 芳夫	退職	嘱託

【転入・採用者等】

転退別	教科等	氏名	転出校	備考
転入	副校長	町田 伸	文京 定	昇任
転入	社会	若林 伸治	白鷺 全	
新採	数学	樺澤未紗子	新採	
転入	理科	原田 聡	園芸 全	
転入	理科	荒島 裕光	本所 全	
転入	実習助手	谷山 早苗	向島商 全	
転入	英語	山下 敏広	砧工 全	
転入	保体	沖野弘尚	水元 全	
転入	保体	山本鐵五郎	第三商 全	再任用
転入	商業	菊池 弘明	向島商 全	主幹
転入	保体	大村 達哉	田無工 全	
転入	商業	柚木 治夫	深川商 定	
転入	商業	小山 道也	第二商 全	
転入	室長	柳下 宏子	四谷商 企画管理係長	
転入	担当係長	齋藤 孝仁	篠崎 担当係長	
転入	事務	広瀬 洋子	福祉保健局	
転入	司書	金田 章子	科技高 主任	
転入	技能	関 由美子	青山	

訃報

ご冥福をお祈り申し上げます  
竹田 一郎 先生  
(第十一期卒 評議員、元・都立三商社会科教師)  
平成十八年十月八日入院加療中のところ、心不全にて逝去されました。享年八十二歳。

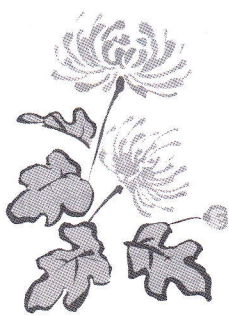
【三商在任期】

昭和二十二年九月、  
同三十九年三月  
【歴任履歴】  
昭和三十三年四月都立小岩高校へ転任、その後、区立中教頭四校、校長二校を歴任、昭和六十年三月、江東区立第三大島中学校長をもって退官されました。

池田 実氏

(第二十三期卒 評議員、株式会社R・T・P(広告代理業) 経営)  
平成十九年五月二十日逝去されました。享年七十歳。

【歴任履歴】理事・評議員として在任期間三十年超を尽くされ、昨年三月、「卒業五十周年記念同期会」を池之端にて開催の原動力として活動された矢先でした。





●創立八十周年記念「会報特別号」に広告の掲載を募集します。

次号の「同窓会報」(第四七号)は、母校創立八十周年を記念し、増頁の企画を予定しています。

かつて周年行事に因み、「同窓会名簿」をその都度発刊し、広告の募集、掲載を致しましたが、昨今では名簿制作を見送る傾向にあります。

つきましては名簿発刊に替え、左記の要綱にて「会報特別号」に広告募集を致しますので、同窓会事務局担当者までお申込ください。

サイズ (天地×左右)		紙 面	【広告料金】
A	60mm × 95mm	8分の1頁	5,000円
B	120mm × 95mm	4分の1頁	10,000円
C	120mm × 190mm	2分の1頁	15,000円
その他	個人名刺広告	60mm × 30mm	3,000円

『両国の駅のおそばの大関庵  
味も良ければ盛りもよいよい』

そば処 大 関 庵

19期 大 関 守

JR両国駅西口  
国技館通り中程

TEL.03-3631-0728

TRADE  MARK  
**三 興 徽 章 株 式 會 社**

東京都江東区佐賀1-7-10 三興徽章ビル ☎135-0031  
T E L 代 表 (3641) 4 4 2 6  
ファクシミリ (03) (3641) 4 4 1 4  
バッジ・カップ・トロフィー・記念品  
両国支店・両国ショールーム ☎130-0011  
東京都墨田区石原3-15-4  
ダイアパレス錦糸町第五101号

古田 勝一 (第26期)、古田 純代 (旧姓斉藤・第28期)

親切に、お客様第一に業務を行います。

公認会計士 税 理 士 **浅野 修一**

(第21期卒)

事務所 〒110-0015 台東区上野1-24-4 丸千第二ビル  
電話 03-3835-2233 FAX 03-3832-7175

24時間絶え間なくウォッチしています。

**ALACOM ADVANCED  
SECURITY SYSTEM**

〒105-0003 東京都港区西新橋1-1-3 東京桜田ビル  
**アラコム株式会社** 電話 03-3506-5341 (代表)

編 集 後 記

来年は創立八十周年の特別号になります。

大勢の方の投稿を期待しております。懐かしい思い出話など、締切日に関係なく、書き上がりましたら、どんどん送ってください。お待ちしております。

来年こそは、七月一日に発行したいと思っております。

岩瀬和子

次号は、何とか原稿を早く集める算段をしたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

改めて読んでみると、なかなか良くできているとおもいます。もう少し頑張れそうです。

杉本光男

一年に一回の同窓会報の発行、全同窓生が待ちわびる楽しくて心に残る会報の発行に心を込めて送りたいと思ひます。

三浦康二

安倍総理の支持率ダウンを仄聞しつつ、中越沖地震勃発と、落ち着かないまま校正作業中。参院選前には刷りにしなければと。何よりもミスプリを一掃することが昨年来の課題です。

柴崎晴雄

編集後記は私の苦手。声の大きさには我ながら自信あり、口で書いた方が早いので、原稿省略しますネ。

田端 彰

「八十周年記念特別号」に奮って寄稿をお待ちします。

次号「第四十七号同窓会報」を特別号とし、ご投稿をお待ちいたします。最寄の事務局理事までお届けください。締切りは、平成二十年五月末です。